

広帯域差動プローブ  
AP034/AP033 簡易操作手引き



2007年3月発行  
レクロイ・ジャパン株式会社

# 1. 差動プローブのオシロスコープへの接続

- ・オシロスコープを起動します。
- ・差動プローブの接続側(ソケット部)をオシロスコープの入力端子("ProBus"インターフェース)に接続します。  
カチッと ソケット部のツメがオシロスコープ端子のProBus部に噛み込むまで圧着させます。

注意: 差動プローブ ソケット部の6pin端子 と オシロスコープのProBus部 の6穴端子が合う向きで接続ください。



オシロスコープ 入力端子部  
入力端子 (ProBus部)



6穴 端子

差動プローブ ソケット部



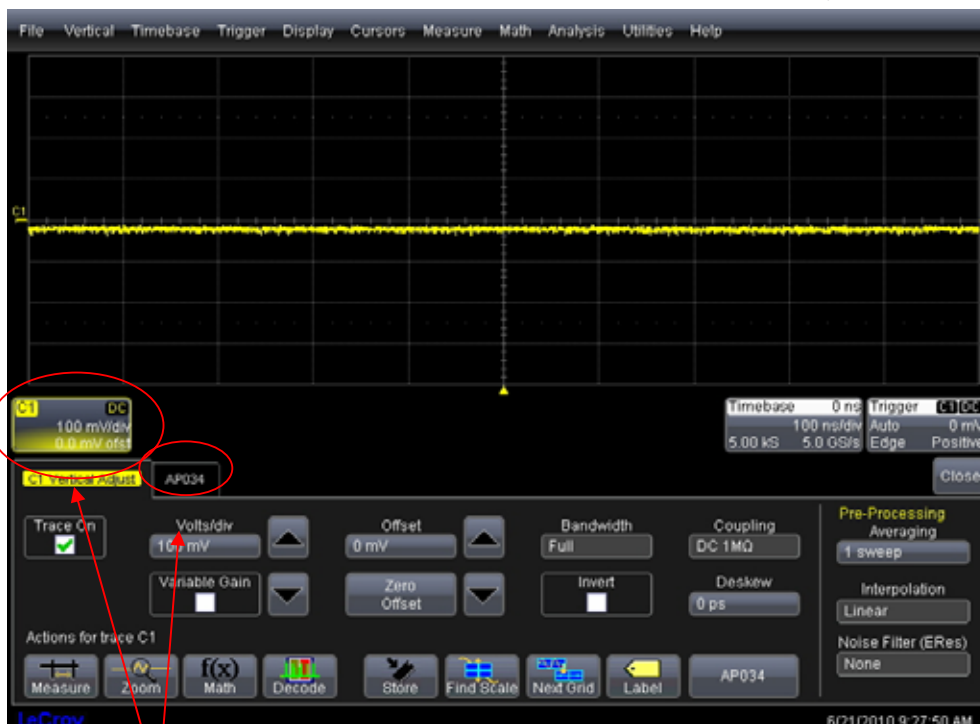
6Pin 端子

接続した様子



## 2. オシロスコープ 画面表示 ~ (差動プローブ) 認識確認

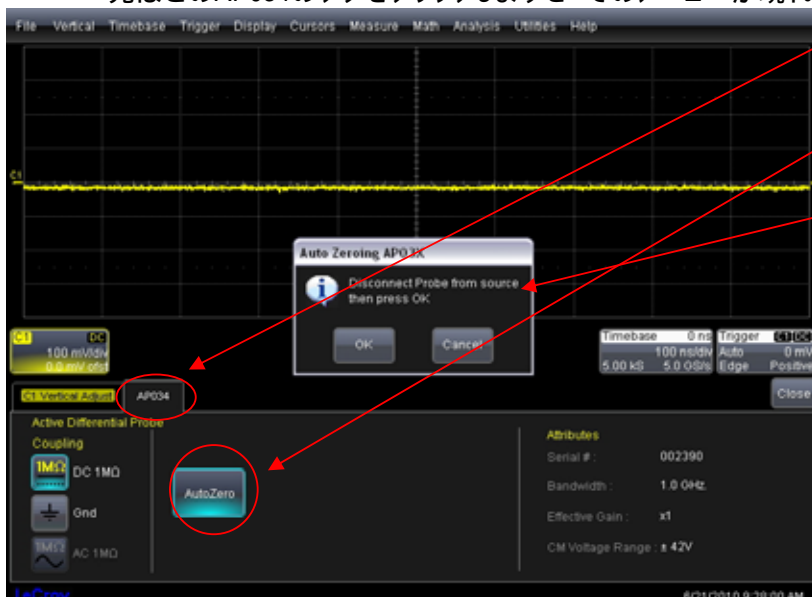
- ・差動プローブが正常に接続されると  
オシロスコープが差動プローブを認識しているか確認できます。



オシロスコープの Ch1の入力端子 に差動プローブ AP034を接続した場合は  
・C1(Ch1)のアイコンをクリック ch1の縦軸設定メニュー上に AP034のタグが現れます。

## 3. 差動プローブの準備(AutoZero)

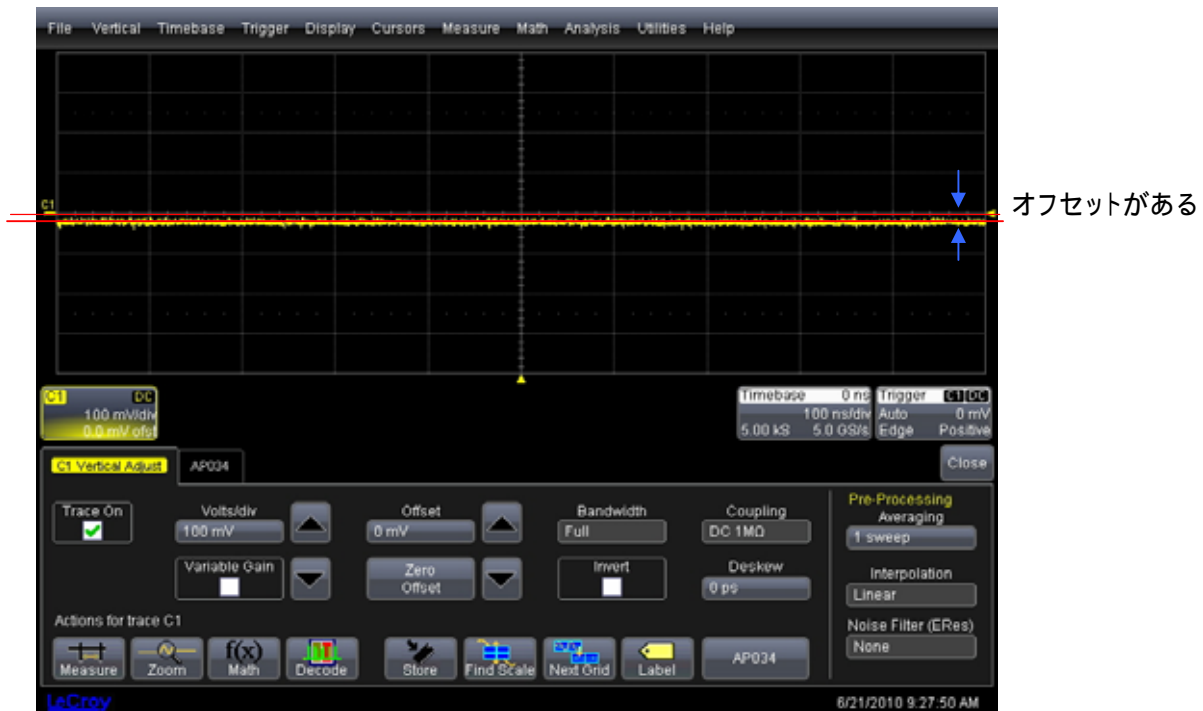
- ・差動プローブはオシロスコープに接続するとオフセットが乗っている場合がありますので  
このオフセットをAuto Zero機能でキャンセルしてからご使用ください。
- ・差動プローブはオシロスコープ本体に接続した後、20分くらいは定常温度に達するまで  
暖機運転をしてからご使用下さい。  
使用環境温度が低い時などでは、十分な暖気運転をして下さい。
- ・オシロスコープ画面上のメニューよりAutoZeroができます。
- ・先ほどのAP034のタグをクリックしますと そのメニューが現れます。



1. AP034タグをクリック
2. AutoZero をクリック
3. AutoZeroをして良いか  
確認してくるので

Okをクリックすると  
AutoZeroが始まります。

## Auto Zeroの様子



AutoZero 後



これで 使用できる状態になりました。

#### 4. カプラーについて

- ・AP034には 3種(AC, 10:1, 20:1) が付属しています
- ・これらのカプラーを 差動プローブ先端(測定端子側)に装着して使用する事により減衰させてオシロスコープに電位差を入力したり AC結合をさせる事が可能です。カプラー(減衰器)を使用することにより、より大きな差動電圧信号を観測することができます。

- ・差動プローブへの各カプラーの装着はカプラー側のピンが 差動プローブ側の穴に差し込まれる様に 装着する向きに気をつけてください。

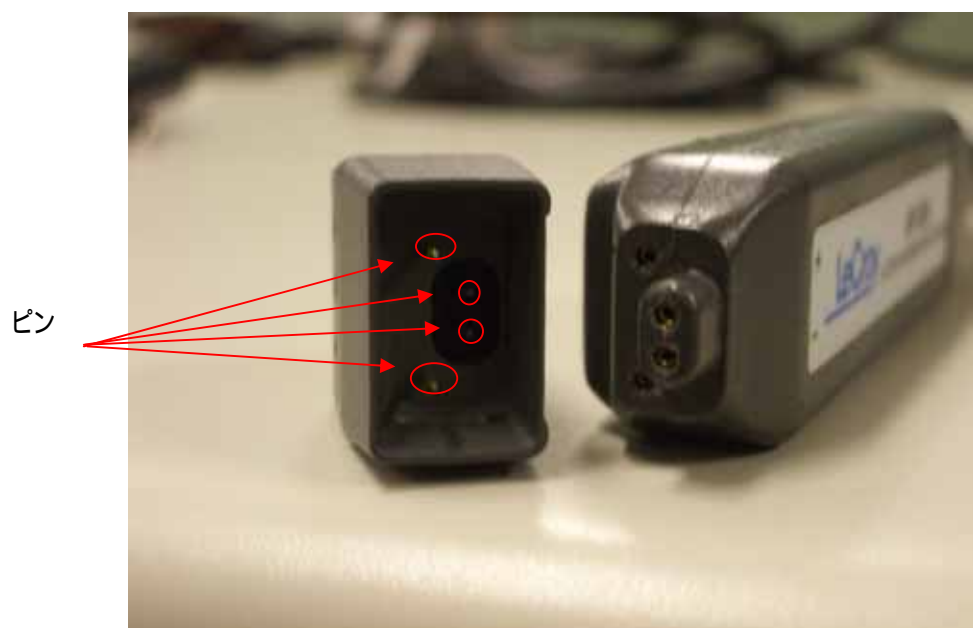
- ・差動プローブに付属する各カプラーは、その製造番号のプローブ本体専用です。他の製造番号の差動プローブと兼用することはできませんので、ご注意ください。



10:1 カプラー

20:1 カプラー

AC カプラー



カプラを装着した様子



## 5. 差動プローブ入力について

差動プローブへの信号入力は + - の各端子(穴)に  
付属のリード や クリップなどを組み合わせて差し込んで  
入力してください

入力の端子(穴)は + - がラベル表面に指定されておりますので ご注意ください。  
その他の奥側の2つの端子はGNDと接続されたカブラを認識するための端子です。

- 側 端子

+ 側 端子



- 側 端子

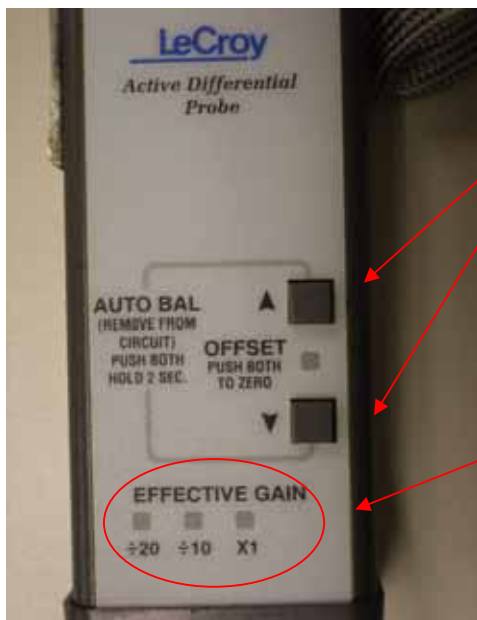
+ 側 端子



## 6. ProBus 非搭載オシロスコープでの差動プローブ操作について

ProBusを搭載していないオシロスコープでAP034/AP033をお使いの場合  
弊社のADPPS電源アダプタを使えば 使用可能です。

その際はオシロスコープ側でAutoZero の実行や減衰率 カップリングの設定を  
操作・認識できませんので 差動プローブについているボタン類で設定します。



オフセットの調整ボタン  
(両方同時に押せばAutoZeroが実行されます)

減衰率のインジケータ  
使っている減衰率に応じてLEDが点灯します。